

書けたところから、点を積む

この紙のゴール：自由英作の採点を、減点ではなく加点で、1枚90秒に収める

減点式で採点すると、英語が弱い生徒の答案は0点に張りつき、採点者は「どこから引くか」を答案ごとに考えることになります。加減式は逆で、**入っているものを数える**だけです。この表は生徒に配る面へそのまま刷ってあります—何が点になるかを先に見せておくと、返却時の説明は「ここが入っていません」の一言で済みます。

加減表 20点満点。自由英作（意見文・要約・資料の説明）に共通で使えます

加減の項目	点	何が入っていれば点になるか
条件を満たしている（語数・形式）	2	指定語数の8割以上。題をそのまま写した文は語数に数えません
立場が1文で言い切れている	3	はじめの1～2文に、賛成か反対かがはっきり書いてある
理由が2つあり、別のことである	4	各2点。2つ目が1つ目の言いかえになっていたら1つ分
それぞれの理由に具体がある	4	各2点。例・数・自分の経験のどれかが1つ入っている
反対の立場の中身に一言ふれている	2	何と言われるかまで書く。「違う意見の人もいる」だけでは入りません
順序や関係を示す語が2つ以上ある	2	First / Also / However / So / but など
意味が取れる文が8割以上	3	読み返さずに意味が取れば入ります。細かい誤りは見ません

- ・ **引かないもの**：つづりの小さな誤り（意味が変わらないもの）／書き直しの跡／字のていねいさ／指定語数を超えた部分（超えた分は読みません。減点もしません）。
- ・ **0点になる場面**：白紙／課題と関係のないことを書いた／日本語だけで書いた／本文や例文をそのまま写した。

出す前の自己点検 自分で読み返して、入っているものに印をつけてから出します

- ☐ はじめの1～2文で、賛成か反対かを言い切った
- ☐ 理由を2つ書いた（2つ目は、1つ目の言いかえになっていない）
- ☐ それぞれの理由に、例か数か自分の経験を1つ足した
- ☐ 反対の人が何と言うかを、一言書いた
- ☐ 順序を示す語（First / Also / However / So など）を2つ以上使った
- ☐ 指定語数の8割以上を書いた

点の意味

20点は「英語が完璧」ではなく、**型が全部入った**という意味です。文法の誤りが残っていても、意味が取れて型が入っていれば高い点になります。逆に、きれいな英文でも理由が1つしかなければ点は伸びません—このテストで測っているのは、**自分の考えを相手に届く形に組み立てる力**だからです。

加點式ルーブリック | 採點の順序とブレ対策

40人を止めない配分 1枚90秒＝40人でちょうど1時間。まとめて1回で終わらせる前提で組めます

時間	すること	見るもの
5分	アンカーを3枚先に採點する	上位・中位・下位から1枚ずつ。ここで基準が固まります
25分	1周目＝内容だけを数える	加點表の上から5項目。英語の誤りは見ません
20分	2周目＝言語とつながぎを見る	残り2項目と、返却コメント1行
10分	境目だけ読み直す	同じ點の答案を並べ、順序に納得できるか確かめます

1周で内容と言語を同時に見ると、英語のうまい答案の内容を高く見てしまいます（後光効果）。2周に分けるのは、その1點だけのためです。

ブレを止める4つの決めごと 長文読解ラダーの記述採點と同じ原則です

- ・読みやすさは減點しない。字と内容は別のものです。
- ・1つの誤りで2か所引かない。時制の誤りを「言語」と「内容」の両方で数えないこと。
- ・だいたい合っているに點を出さない。加點の判定は入っているかいないかの2択で、迷ったら入っていない側にします（迷う答案は、たいてい読み手に届いていません）。
- ・指定語数を越えた部分は読まない。減點もしません。書かせたいのは長さではないので、超過を罰すると次から短く書く生徒が出ます。

言語の3點の付け方

状態	點	判定のしかた
読み返さずに意味が取れる	3	誤りがあっても、1回読んで通じれば3點
1～2か所で読み返した	2	主語と動詞の対応が崩れている文が2文以内
意味が取れない文が多い	1	半分以上の文で、何を言いたいか決められない

0點にはしません。書いた時点で1點が入ります—英作文を出させ続けるための設計です。

配點を動かすとき

- ・具体を増やしたいときは「それぞれの理由に具体がある」を4點から6點に、「順序や関係を示す語」を2點から0點にします（つながぎは指導すれば全員が入れるるので、點差がつきません）。
- ・入試の自由英作に寄せるときは、語数の條件を2點から0點にして、代わりに「反対の立場」を2點から4點に。譲歩と反論は、そのまま二次試験の採點基準になります。
- ・1年生の最初は、上の3項目（條件・立場・理由）だけの9點満點で始めます。全員が半分は取れる形から入らないと、書くこと自体をやめます。

返し方

- ・點だけを返さないこと。返すのは次の1手を1つだけです（「理由2に例を1つ」で足りる）。
- ・上位の答案を1枚、名前を伏せて配ると、次の回の全体の型が上がります。教師の模範解答より、同級生の答案のほうが届きます。
- ・同じ課題をもう一度書かせるなら、2週間以内に。間があくと、直しではなく新しい課題になります。

つながる紙

論理・表現の意見文の設計図は、この加點表と同じ7項目で作ってあります。授業で使う型とテストの採點基準がそろうので、生徒から見ると「授業でやったとおりに書けば點になる」形になります。教科で採點をそろえるときは、同じ課題の答案6本を採點してみせた採點アンカー集（Premium）を教科会の材料にしてください。

